

モンゴル学の視点からみたイスラーム研究

楊 海 英

イスラーム研究は、現代社会のもっとも緊急性を有する課題の一つである。それは「絶対的なムスリム社会」ではなく、多様性に富んだイスラーム社会を意味する。その多様な一環として、モンゴルとイスラームとの関係を説明することが必要不可欠である。というのは、ユーラシアにおけるイスラームの世界化はモンゴル帝国支配の結果でもあるからである。

本稿は、モンゴルという民族の内部における多様性と、モンゴル人の一員である著者自身の個人的な多様性を示すことによって、モンゴルとイスラームとの関係を論じようとしたものである。それにより、まったく別のイスラーム研究、別の「イスラーム対モンゴル」が見えてくるはずである。